

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

4年生：校内平均正答率は、目標値を下回った。また、内容別正答率では、11項目中、「植物の育ち方」「こん虫のからだのつくり」以外、9項目が下回った。特に「こん虫の育ち方」では、目標値よりも20ポイント以上も下回っている。

5年生：校内平均正答率は、目標値を下回った。内容別にみると12項目中「1年間の動物の様子」「動物のからだのつくりと運動」「水のすがた」の3項目は目標値を上回った。残りの9項目では全て下回っている。中でも、「1年間の植物の成長」においては10ポイント以上、下回っている。

6年生：校内平均正答率は、目標値を下回った。項目別に見ると10項目中7項目が下回った。特に「天気の変化」「ふりこのきまり」「物のとけ方」が10ポイント以上、下回っている。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全学年で目標値を下回った。専門的な用語や用具の名称が問題に出てくる。言葉の意味が理解できていなかったり用具の名前を覚えられなかったりして不正解になることがある。経験していないことが問題に出てくると難しい。	全学年で目標値を下回った。実験の意味・目的を理解していないと解けない問題が多かった。また、日常生活に応用した問題については正答率が低い。	全学年、実験や観察については意欲的に取り組んでいる児童が多い。しかし、理科では専門的な言葉が多く出てくるのでテストの点数につながらず意欲が低下してしまうことがある。楽しく授業に取り組みながら、学習内容を確実に定着させる必要がある。

課題〈今回の調査結果から〉

問題の内容別正答率では、4年生では、「電気の通り道」「じしゃくのせいしつ」「ものの重さ」「こん虫の育ち方」、5年生では「1年間の植物の成長」「月と星」「物の体積と力」「もののあたたまり方」、6年生では「天気の変化」「流れる水のはたらき」「ふりこのきまり」で目標を大きく下回った。

○知識・技能では、用語を覚える時間も必要。各学年で配当されている実験器具の扱いを確実に扱えるように知識として獲得させる必要を感じる。観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録することが必要であり、その学習経験から知識も獲得できると考える。また、実験・観察の目的・意味についても確実に獲得させる。学習効果測定に出題されているため、3年「こん虫の育ち方」を学習する際、カイコガについても指導する必要がある。

○思考・判断・表現の力を伸ばすために、予想段階で差異点や共通点を基に問題を見いだす過程を踏ませ、問題意識をしっかりと持たせた上で考えさせていく。「問題解決の力（比較・関係付け・条件制御・多角的にみる）」を発揮しながら科学的な見方・考え方ができるように予想→結果→考察の流れに沿って実験を行っていく。実験・観察後に考察を書かせるが、初期段階では話型を与え、思考の流れを文章で表現できるようにさせる必要を感じた。また、授業で行ったことと日常生活でどのようなつながりがあるのかを日ごろから考えさせ、使える知識としてエピソード記憶として残す方法を考えていく必要がある。

○主体的に学習に取り組む態度については、学習したことと日常生活での事物・事象が結びつく事例を授業で取り上げ、学習したことが日常生活に活かされていることに気付かせる。そして、その気付きを文章化させることで自分の考えを表現する力を付ける必要がある。